

地域の会

http://www.tiikinokai.jp

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた25名以内の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)
臨時会(必要に応じ開催) ※会は、原則すべて公開。

7月 第145回 定例会

柏崎刈羽原子力発電所における様々な安全対策の取り組み状況について説明を受け、質疑応答



前回定例会以降の動きについて各オブザーバーから報告を受け、委員から活発な質疑が行われた。その後、今後の会の運営や考え方について委員全員での確認が行われた。

〔前回定例会以降の動きについて質疑応答〕

Q 福島事故について中長期ロードマップが改訂され、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業が最大3年延びるとあった。使用済燃料や燃料デブリ(炉心溶融物)取り出しがすべて終わってからの、避難した住民を福島に戻すのが正しい手順ではないか。

東京電力 発電所周辺の線量などが帰ることが出来る状況になった時点で避難解除になると思う。できるだけ早く帰っていただくことが我々の願いである。

Q ベントに至る時間を訓練による力量の向上や運用面の改善等により25時間から38時間に延ばしたということだが、これは設備面は一切関係なく、運用面だけでこれだけ延びたということか。

東京電力 ひとつはガスタービン発電機を丘の上に設置し起動訓練によつて早くできるようにしたこと。それから、高台の貯水池の水を建屋周辺のタンクに送る注水スピートを早くすることで13時間伸ばすことができた。

Q その時間というのは第三者に認定されたものか。

東京電力 時間や人数については作業ごとに数字を積み上げて国の審査会で示し、審議された数字である。

Q 現状ある冷却系がすべて使えなくなった場合、外部の電源や代替熱交換器によつて運用される代替循環冷却系配管が新設されるとさらにベントまでの時間に余裕ができるという理解でよいか。

東京電力 現在の状況で38時間。代替循環冷却系配管が新設されることでさらにベントをしながら済むという状況になる。



Q 新潟県の技術委員会ではフルタバントの放出までに6時間という想定がされていたが、この38時間を評価し今後避難計画に生かすことはあるのか。

新潟県 6時間というのは、福島の新潟県に全電源喪失から6時間間くらいで原子炉建屋の中の線量が上がり、圧力容器からの漏れが生じていたのではないかと、いう経験に基づいた時間であり、仮に福島と同じような事故が柏崎で起きたときにどうなるかを想定したものである。技術委員会は今議論していただいているのは、新潟県としてフルタバント設備を造ることに対して事前了解をして良いかどうかの判断。フルタバントを使う場合、使うかも知れない場合に避難計画との関係がどうなっているかという観点で議論を行なっている。

Q 格納容器内の圧力の時間経過を示すグラフでは38時間あたりが一番格納容器内の圧力が高い。この段階での放出と、先日知事が効果があるのではないかと、言っていた、早めに蒸気を逃がすアーリーベントについての見解を聞きたい。

東京電力 フィルタベントには炉心損傷を防止するベントと炉心損傷しても土壌汚染と長期避難を防止するための炉心損傷後のベントがある。アーリーベントは前者。炉心損傷前のベントなので放射性物質が大量に外に出る

ということはない。

Q 福島事故では建物の天井が壊れたが、ベントと建屋との関連はあるか。

東京電力 原子炉建屋の爆発とベントとの関連はない。福島第一での建屋の爆発については、原子炉の冷却ができず水素が発生。格納容器にたまった水素は、圧力の上昇により格納容器から漏れて原子炉建屋にたまり、何らかの火花が起きて爆発に至った。ベントにより格納容器から圧力が上がったガスをフィルタを通して放出することで水素が原子炉建屋に漏れないようにすることができる。

Q 住民避難について。救助や救援をする車が避難する人たちの妨げになることはないのか。

柏崎市 緊急車両については県警と協力しながら使用する道路に交通規制をかけるなど優先的に目的の場所に誘導することを確認している。

〔委員からの意見・要望〕

●東京電力は福島事故の未解明事項の調査、分析から様々な安全対策について取組んでいるが、その安全対策は本当に実効性があるかどうかを県の技術委員会に報告し十分に検討してもらいたい。

委員の発言は個人の感想です。

概要
開催日 平成27年7月1日(水) 出席者 18名(欠席1名)
場所 柏崎原子力広報センター(研修室)
オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所(原子力規制庁)、地域担当官事務所(工ネ庁)、東京電力(株)

県地域防災計画(原子力災害対策編)の説明を受けて質疑応答



前回定例会以降の動きについて各オプザーバーより報告。その後、県地域防災計画原子力災害対策編、さらにPAZ(5km圏内)に居住する住民への安定ヨウ素剤配布について新潟県より説明を受けた。定例会後半では、新任委員からフリートーク形式での意見発表が行われた。

【県地域防災計画原子力災害対策編の説明について意見】

●細かなところまで説明いただいたが、難しい言葉もありすべて理解するのは難しい。今後定例会の中で再度説明を受けたり質問していきたい。

【安定ヨウ素剤事前配布について質疑応答】

Q 安定ヨウ素剤の事前配布日が平日のころもある。勤めを持つ方のために6時半までと区切らず時間を延長できないか。

新潟県 時間延長は難しい。その代わり、平日都合が悪い場合は土日に開催する会場など都合のよい日時の会場で受付ができるよう対応している。

Q 安定ヨウ素剤に副作用があることを知らない人が多い。副作用について公表し、説明をしてもらいたい。

新潟県 配布の際、対象の方には事前に説明書とチェックシートを送付する。シートに既往症等を記入していただき、会場で医師、薬剤師、保健師などと確認しながら安定ヨウ素剤を配布する。個別の疑問点などはそこでお答えしている。

Q なぜこれまで副作用のことを文書で公表してこなかったのか。

柏崎市 今まではあまり公表してこなかったが、詳しいQ&Aは配布会場に対象者に直接お知らせする。また医学的な内容についての電話による問合せ先もお知らせする。

Q PAZは今回配布になったが、UPZ(5km〜30km圏内)の安定ヨウ素剤配布の計画はどのようになっているか。

新潟県 国の原子力災害対策指針においてUPZの事前配布は必要ないとしているが、課題が多く

県としてはUPZも事前配布が望ましいと考えている。今後、関係機関と調整しながらどういうやり方がいいのか検討していく必要がある。今の段階ではまだ見通しは立っていない。

Q 仕事などでPAZに入っている人たちの対応はどうしたらいいか。

柏崎市 今回の配布については住民票を基にPAZに居住する方への対応。通勤・通学などそれ以外の方についてはPAZ外へ早く移動し帰っていただくよう対応する。

【安定ヨウ素剤配布について委員からの意見】

●「有事の際にPAZから早く帰っていたらいい」だけでは済まない問題がたくさんある。いろいろな状況に合わせた対応を考えてもらいたい。

●UPZの対応に関して、備蓄されている安定ヨウ素剤をどのように管理し配布するのか見通しだけでも示して知らせるべきではないか。

●PAZへの安定ヨウ素剤の事前配布は一歩前進だと思う。子どもへの対応について学校関係、保育園などの健康診断等でヨウ素過敏感症を調べるなどの対応をしてもいい。

【新任委員からの意見】

●地域の会には賛成、反対、中立の立場の方たちが集う。率直に話が

概要

開催日 平成27年8月5日(水) 出席者 17名(欠席2名)
場所 柏崎原子力広報センター(研修室)
オプザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所(原子力規制庁)、地域担当官事務所(エネ庁)、東京電力(株)

できる会であってほしい。

●発電所の安全に関してオプザーバーからもっと話をしてもらいたい。皆さんで建設的に話し合いたい。

●オプザーバーから説明を受けてもなかなか理解できないが、この場に問題を持ってくれば誰かが答えてくれることがわかったので今後質問を考えたい。

●原発は国策でやっているのに責任の所在は事業者。行政や国にもっと真摯に向き合ってもらいたい。

●地域の会はレベルが高く、他愛のない質問や意見は時間がもつたないと思ってしまう。モニタリングポストの役割とは何か。表示が車で走っているとよく見えない。避難時、事業者が各地域に状況を伝え避難の手助けに来てくれたらありがたい。

●再稼働にしても廃炉にしても30km圏内に住む住民のための防災計画は進まない。高レベル放射性廃棄物の問題など、どれだけ電気料金に反映されるか心配。

●若い母親の気持ちをオプザーバーに聞いていただく機会は貴重だと感じている。3.11で一度事故が起こると元に戻らないということを知った。賛成、反対、中立の枠を超えて一緒に考えていけたらいいと思う。

●将来の子ども達のために原発を再稼働して地元を活性化させ経済を発展させていくことが今の私たちにできることだと思っている。

●「発電所の賛否はひとまずおいで」地域住民の素朴な監視活動」という目的で地域の会が和やかに続くことを願う。

委員の発言は個人の感想です。

編集後記

九州電力川内原子力発電所一、二号機が通常運転に復帰し、二年ぶりに国内で原子力による明かりが灯された。原子力規制委員会の審査を通過した結果である。どのような経緯で合意に至ったのかは定かでないが、薩摩川内市では少なくともお互いに相手を尊重し話を聞き理解しようとする「コミュニケーションの基礎たる関係性が維持され、機能したことが伺える。新潟ではどうか。先ごろ初めて泉田知事と田中原子力規制委員長との会談が実現し、これまで住民には見えにくかった課題が明らかになった。また、県の技術委員会に国の福島事故検証委員会の委員長が参加した。これまであまり良好とは思えなかった状況が好転し始めた事を感じる。この流れを途絶えさせてはならないと思う。国と自治体と我々住民の間に冷静な議論が交わされる環境が早期に整う事を強く望んでいる。(石坂委員)

今後の「地域の会」定例会の開催案内

第149回定例会
日時:平成27年11月4日(水)午後6:30~9:00
場所:柏崎原子力広報センター

第150回定例会
日時:平成27年12月2日(水)午後6:30~9:00
場所:柏崎原子力広報センター

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <http://www.tiikinokai.jp>
ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合せについて、ホームページ上からも受け付けています。